

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1470901248
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	グループホームカメリア壱番館
訪問調査日	平成26年3月25日
評価確定日	平成26年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 25 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901248	事業の開始年月日	平成17年3月17日	
		指定年月日	平成17年3月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	グループホーム カメリア壱番館			
所在地	(〒230-0052)			
	横浜市港北区新羽町3954-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中のグループホームで、入居者は毎日の散歩などを通じ四季折々の花や木々を見ながら季節を体感されています。食事は同法人の老人保健施設の管理栄養士が作成したメニューを基に、入居者と一緒に地域の商店に買い物に行っています。入居者の方に下拵えや味付け、調理、食器洗いなど、出来ることに参加していただいています。調理以外でも掃除、洗濯物干しなどご自分で出来ることは、職員が関わりながら行っていただいています。法人全体で行うボランティア行事や映画鑑賞会、メイク教室への参加の他、ホーム内で行なわれる週二回の音楽療法、書道教室、入居者の希望を取り入れた外食会、地域の行事への参加などイベントも多く、楽しみの多い生活環境が整備されています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年3月25日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホームカメリア壱番館は、港北区新羽町に所在する医療法人寛栄会の運営です。法人は、介護老人保健施設・診療所・居宅支援センター・高齢者グループホーム(2)等、多くの福祉事業を展開しています。交通アクセスは、横浜市営地下鉄新羽駅より徒歩15分の道のりで、周辺環境は、お寺がある小高い山を背に周囲は畑や竹林に囲まれ、春には梅や桜で花見が楽しめる閑静な環境の中に、鉄骨構造2階建てのホーム専用として建てられたカメリア壱番館があります。

●カメリア壱番館では、一人ひとりの持てる能力を把握し、自宅で過していた日々と同様に地域の一員として過せる様に、趣味を通しての書道や菜園づくり、映画鑑賞など、更には、能力に合わせた家事活動として、買い物・食事作り、おやつ作り等、意欲や楽しみを引き出し、生き生きと過ごせる事に重点を置いた、様々な行事を企画して支援に努めています。

●ホームでは、利用者の一人ひとりと触れ合う場を多く持ち、個性豊かな関わりが出来る様に心がけ、家族との交流も密にし、入居者を共に支え合う関係の強化に努めています。また、地域との繋がりでは、災害時避難訓練を始め、地域行事の参加や、屋外活動でホームの事を良く知ってもらい、情報交換が出来る関係作りに努めています。

●経営母体が医療法人である事から、ホームでは入居者の認知症の進行を緩和する取り組みとして、定期的に専門員による音楽療法を採用入れ、利用者が楽しみながら健康維持ができるよう取り組んでいます。又、日々の一般健康管理でも、同法人のカメリア診療所の定期診療と、看護師による休日・夜間の緊急時対応の相談もあり、適切な医療を支援しています。

●職員教育では、資質の向上に力を入れ、同法人内での合同の新人研修や、隔月の学習会を実施し、更に、個々のスキルにあった外部研修への参加の機会を設け、すすめています。業務では、先輩職員が後輩職員へ随時指導できるような体制を構築し、虐待防止・拘束禁止等についても全職員が共通理解を図り、日々の介護支援に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム カメリア壺番館
ユニット名	1 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60 自然	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の三本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。	基本理念「ご入居者様の意思を尊重し充実した生活を提供します・家族的な温もりを大切にしたい生活空間を作ります・家族や地域の皆様との触れ合いを大切に開かれたホーム作りに努めます」をホーム内に掲げ、ミーティング時など機会ある毎に話題にして全職員で共有理解に努め、利用者がホームを我家同様に感じ、気持ちよく自立に向けた生活が出来るよう、介護計画に基づく日々の暮らし支援が行われています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の食材や日用品、衣類など地域の商店で購入している。近隣のレストランでの外食や、美容室も利用している。また町内会に入会し、地域の行事などに積極的に参加している。	北新羽町内会に加入していて、防災訓練時には、消防署や地域の消防団の方々の協力の下、実施しています。また、祭りなど諸行事でも交流し、楽しんでいます。その他、近隣の中学生の福祉体験実習の受け入れや、日々の暮らしの中からは散歩時の近所の方々との挨拶交換、近くのレストラン使用や馴染みの美容院の利用、食料・日用品の購入を通し、近くのスーパーとの交流など日常的に交流が行われ、自然に地域との付き合いが図られています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の中学生の福祉体験実習の受け入れを行っている。小学校の運動会や地域のお祭りなどの行事参加で地域の方々と交流し、理解を得るように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの中の様子を報告し、会議の中で出された意見、アドバイスを入居者へのサービスに反映できるように努めている。	同法人のグループホーム式番館と共同で3ヶ月に1回（4回/年）運営推進会議を開催し、利用者・家族代表・連合町内会会長・地域包括所長・福祉協議会会長・連合町内会民生、児童委員・家主・福祉協議会事務局長・町内会会長・協力医・看護師・本部・ホーム関係者等の参加を得て実施し、ホームの活動状況と今後の活動予定等を報告し、出席者から意見を頂き、話し合っています。結果は、会議録に残し、関係者と職員に報告してサービス向上に活かしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区町村の担当の方と連絡、相談を行い、入居者に必要なサービスにつなげるなど連携を図るように努めている。また、案内のあった研修には職員を参加させている。	関係行政からの案内により研修会に参加しています。又、区の高齢者支援課とは、オムツ支給やホームの入居状況等の報告と、現場からの情報の提供も行い、連携を図っています。市の窓口とは事故報告などを行っています。更に、生保受給者の諸手続き上で不明点等も相談し、福祉保健センター保護課とは連絡相談を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の勉強会に参加し、拘束の定義を再確認している。職員ミーティングでは個別に入居者について検討しており、拘束のないケアを実施している。	運営規定12条・契約書6条に「生命及び身体保護の為やむを得ない場合を除き身体拘束は行わない」と謳い、また、止む無く行う場合の手続きも定め、全職員が研修を通じ、拘束に該当する行為を行った場合のデメリットを学び、理解共有して拘束の無い支援が行なわれています。ユニット入口及び日中の玄関施錠はしていません。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の勉強会に参加し、再確認できるようにしている。虐待に関するアンケートを定期的実施しており、自己確認も行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内の勉強会に参加し、学習の機会を持っている。実際に制度の利用が必要な入居者には、関係者、行政などに連絡し、活用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い説明を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口を明記しているほか、見やすい場所に連絡先を提示している。	重要事項説明書9、運営規定13条、契約書8条に苦情受付窓口とその対応を明記して、契約時に説明しています。運営推進会議の出席の際や、ご家族の来訪時に職員から声かけをし、ホームでの暮らしぶりを伝える中から「意見、要望」等を伺っています。また、意見、提案、苦情は、会議で検討の上、運営に反映するようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを開催し、職員の意見が出出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、自分の意見を言いやすい職場づくりを心がけている。	職員ミーティングで職員間の気付きや意見を提案として出してもらい、また、申し送りや連絡ノートでも気付きなどを記し、運営に反映する仕組みをもっています。加えて、管理者と職員の間には何事も気軽に話し合える関係構築と、意見要望なども言い易い職場作りを心がけ、日常的に運営に反映するよう努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の法人内、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行なっている。また、法人本部には常に相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での合同の新人研修や隔月実施の学習会に参加している。スキルに合った外部研修への参加の機会も設けている。業務内では先輩職員が後輩職員へ随時指導ができるような組織づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内や外部研修への参加の際、情報交換を行なっている。近隣の他法人のグループホームとは運営推進会議に参加しあい、良い交流の場となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で本人と話し合う機会を持っている。また、本人、家族共に納得し、安心して入居できるように体験入居を利用する事もできる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の電話や見学の際、家族の不安などを伺うと共に、話し易い関係づくりに努めている。入居直後は、本人の様子を電話などで伝えるなど、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいた資料や面談内容を他職種で検討し、必要な支援を見極めて対応するようにしている。必要に応じて行政などのサービス利用に結びつけたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、出来ることはやっていたいでいる。立ち仕事が困難な方には座って行える工夫も行っている。職員と一緒に出来る方には付き添うなどし、出来る限り自立した生活の支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子を報告するなどし、外出や外泊を勧めるようにしている。その際の様子もよく伺い、職員、家族間で情報を共有し、本人をともに支える関係づくりを実践している。また一緒に食事をしていただけるように、外食会にお誘いしたり、ホーム内で食事会を開催している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの方の面会を勧めている。希望があれば電話で話していただくなどの援助も行っている。入居前に参加していた行事などへはご家族の協力も得て、継続できるようにしている。	本人の馴染みの場所やこれまでの人間関係の把握は、日頃の会話やご家族の情報等で把握しています。知人との手紙や電話取次ぎや、来所面会等も支援しています。思い出の場所訪問や行事への参加では、ご家族の協力で継続できるように支援し、法事やお墓参り等へ行かれる方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を配慮して食事席などを決めたり、時には席替えを行うなどしている。レクリエーションなどでは入居者同士がコミュニケーションを上手く取れるように職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時には今後も相談に応じる旨を必ず伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で入居者の希望、要望を把握している。具体的な事柄は直接本人の希望を伺うこともある。意思表示が困難な方には生活の様子を注意深く観察し、本人の意向を把握するよう努めている。	日頃の会話を通じて意向の把握を行っています。意思表示が難しい方には寄り添い、注意深く観察することで、本人の思いを汲み取り、更に、ご家族からの情報等と合わせ、その方の意向を計り、職員間で共有し、外出など本人本位を前提に、ケアプランに組み入れて実践出来る様に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族からこれまでの生活全般を伺っている。入居後も会話の中で情報を収集し、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、状態は個人記録に記入している。心身状態や体調は変化を見逃さないように観察している。有する能力を把握し、維持できるようにケアプランに記載し、ケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の希望を取り入れ、日々の生活からアセスメントを行い6ヶ月毎に介護計画を作成している。状態が変化した時は随時プランを変更している。	介護計画の見直しは6ヶ月を前提として、ご家族の希望があった場合や変化で必要性が生じた場合は随時行っています。計画を最も適した内容とする為、アセスメントで、職員の日々の観測結果に基づき、意見を述べ合い、ご家族の意見も加え、計画作成担当者との話し合で、介護計画を立案しています。また、月1回モニタリング評価を実行しています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表、食事摂取量表等の記録、申し送りを中心に職員間で情報を共有し、より良いケアの実践につなげている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者ひとり一人の変化に応じて同法人内の他の専門職とも連携を取り対応している。必要に応じたサービスが提供できるように家族とも話し合い対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や同法人内の行事に参加するほか、買い物、外食、美容院などで地域に出る事で、地域とつながり、楽しみのある生活の支援を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決め定期的に受診の支援をしている。かかりつけ医には生活上の注意点など相談している。また同法人内の診療所とは医療連携を図っている。	本人、ご家族の意見を尊重し、希望の医療機関が決められています。提携医以外の受診に際し、ホームでの生活状況などの必要情報を提供し、ご家族対応をお願いし、受診結果等の必要情報を共有しています。現在は、協力医療機関、カメラア診療所（内科・心療内科・楓歯科クリニック）の定期診療と医療連携看護師の休日・夜間などの緊急時の相談対応が行われる等、適切な医療の支援を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と職員が入居者の状態を把握している。変化があれば家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、情報提供書を病院に提出し、家族の同意を得て医師からの病状説明などには同席するようにしている。退院前には病院関係者と相談し、退院後の生活環境の整備を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、必要に応じて話し合いを行っている。終末医療専門医、訪問看護の機関と連携を取り、看取りを行った経験がある。	終末期のあり方については、必要に応じて主治医、ホーム、家族を含め、話し合いの下に、本人とご家族が納得出来る最良の選択肢を選び、支援する事を全職員で共有しています。(訪問看護との連携で「看取り」実施の経験があります)		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救急救命委員会に職員を配置し、月一回の会議に参加して内容を持ち帰り申し送っている。グループホーム独自のマニュアルも作成し、勉強会も開催している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新羽地区で地域防災協定に加入している。年に二回消防署指導のもと、緊急時の通報、初期消火、避難誘導の訓練を行なっている。この防災訓練には地域の方にも参加していただいている。	様々な災害を想定し、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加え、「定期的な避難訓練を年2回行う」と、重要事項10、運営規定15条に定め、規定に基づき所轄の新羽消防出張所指導の下に年2回、夜間想定で火災避難訓練を入居者と地域の方の参加も得て実施しています。ホームでは突発訓練等を行い、避難体制を整えています。設備として、スプリンクラーは設置済みであり、カーテンは防災のものが使用されています。更に、地域連携を深めた充実した訓練を今後、実施する事を考えています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビングで申し送りを行っているため、入居者に聞こえないような配慮をしている。更衣、入浴、排泄などにも、ドアを閉めたり、スクリーンを使用するなど充分気を配っている。同法人内の接遇委員会に職員を配置し、接遇チェックも定期的に行っている。	運営方針に一人ひとりの人格を尊重する事をうたい、日々の支援では誇りやプライバシーを損ねない言葉遣い等を全職員で共通理解しています。親しみに加え、人格を尊重した対応や、トイレ誘導の声掛けもさり気なく行い、他の人に気付かれぬよう配慮しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。日々の生活の中から本人の希望などを汲み取るように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重し、本人のペースで生活していただけるように配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着選びでは、その人らしい季節に合った服装の支援を心がけている。衣類購入の際は、その方によって店を選んでいる。髪型も本人の希望に合わせ地域の美容院へお連れしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下拵え、調理、盛り付け、配膳、洗い物など、食べ物の話をしながら出来ることは入居者にやっていただき、食事への関心を高めている。	食事作りに関われる利用者には、食材の仕入れや下拵え、下膳、食器洗い等、得意分野を担当してもらっています。食材は法人本部の管理栄養士によるレシピに基き、利用者と一緒に近くのスーパーで食材を調達し、職員と共に調理を行っています。食事は、職員と利用者が同じテーブルに付き、利用者のペースで食事が行われています。また、誕生日にはケーキや希望メニューを用意したり、隔月の外食等も交え、楽しみのある食事支援が行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を使用し、個別に把握している。水分量は必要に応じてチェック表を使用している。食事、水分量には注意を払い不足気味の方には個別で対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方には、排泄パターンの把握に努めて声かけや介助を行っている。日中、夜間とも排泄はトイレを使用していただく事を目標としている。	排泄に介助が必要な入居者には「排泄チェック表」で一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握して、その人に合わせたトイレ誘導で自立排泄を促すように、支援が行われています。介助を行う際も他の人に気付かれないよう配慮し、夜間においても睡眠時間を妨げ無い事を前提に、声かけでの支援を行い、自立排泄に努めています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らないように、朝食前に牛乳を提供したり、水分量を増やすなど工夫をしている。毎日の体操や散歩などの運動も重要と考えている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて毎日午後から入浴が可能にしている。入浴したい時間帯や曜日は希望を伺って対応している。	入浴では、清潔保持の他、身体観察、体調変化の把握などの重要な役割を持ちますが、無理強いする事なく、本人の意向を確めながら希望に添った入浴が出来るよう心掛けています。毎日、午後から入浴が出来るよう支援に努めています。また、季節には菖蒲湯や柚子湯などで、楽しめる様に工夫しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の体力を考慮し、必要な方には日中も臥床時間を作っている。その日の状態によって夜間の睡眠に差しさわりの出ない程度に昼寝を勧めるなど、体調観察と合わせて支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人のファイルに綴じ、職員が閲覧出来るようになっている。処方に変更があった場合、職員全員に申し送るとともに、体調に変化が無いか観察し、医師、看護師につなげている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において「できる力」を活用していただき、役割を持って生活をしていただいている。また、外出や趣味の支援を行ない、楽しみのある生活を実践している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は希望を取り入れてコースを決めている。買い物の希望には随時対応している。隔月の外食会では、行き先を選択していただくようにしている。	利用者には散歩を楽しみにしている方が多く、晴天時の散歩では、散歩コースは希望を聞いて決め、利用者個々の買い物希望には随時対応しています。また、隔月の外食時には行き先の希望を募り、対応するなどして、全ての方が出来るだけ外に出られるよう支援を心掛けています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類、日用品の購入時は、ご自分で支払いをしていただくようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には時間を配慮し電話で話ができるように支援している。手紙を出す際には、切手や葉書などの購入や投函の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた立地で、リビングからでも四季折々の花が見られ、季節感が得られる。室温や臭気に充分配慮し、落ち着いて生活できる環境作りを心がけている。	ホーム玄関を入ると、階段・エレベーターのあるホールとになっていて、その奥にソファーやテレビ等が置かれ、リビング・ダイニングがあり、大きい窓越しからは豊かな日差しと庭が見え、畑や花々から四季折々の季節感が味わえます。玄関ホール右に2部屋、中央部の廊下を挟み両側に居室が並び、見通しの良いレイアウトで、ホーム内の掃除は行き届き、不快音や異臭も無く、空調管理も施され、寛げる空間作りがされています。2階部も同じレイアウトになっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには日当たりのよい畳部分があり、個々に新聞を読んだり、日向ぼっこをするスペースとなっている。また、ソファーや窓辺でそれぞれ自由に過ごすことも出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など馴染みの物、使い慣れたものを持ち込んでいただいている。自宅での生活のまま、和床で生活される方もいらっしゃる。	各居室の入り口には名札が掛けられ、室内にはクローゼット・空調の設備が整い、(空調管理は職員によって行われています)個々に使い慣れた思い出の品の、鏡、椅子、ベット、ぬいぐるみ、仏壇等を設置し、家族写真や趣味の自作品等が飾られていて、自分らしい生活拠点が作られています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手摺を設置し、障害物を置かないようにしている。居室の家具も状況に応じて配置換えを行い、安全に配慮し、自立した生活が送れるように常に考えている。		

事業所名	グループホーム カメリア壺番館
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「家族や地域との交流」の三本柱の理念を掲げている。玄関に掲示し、職員は常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の食材や日用品、衣類など地域の商店で購入している。近隣のレストランでの外食や、美容室も利用している。また町内会に入会し、地域の行事などに積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の中学生の福祉体験実習の受け入れを行っている。小学校の運動会や地域のお祭りなどの行事参加で地域の方々と交流し、理解を得るように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの中の様子を報告し、会議の中で出された意見、アドバイスを入居者へのサービスに反映できるように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区町村の担当の方と連絡、相談を行い、入居者に必要なサービスにつなげるなど連携を図るよう努めている。また、案内のあった研修には職員を参加させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人内の勉強会に参加し、拘束の定義を再確認している。職員ミーティングでは個別に入居者について検討しており、拘束のないケアを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の勉強会に参加し、再確認できるようにしている。虐待に関するアンケートを定期的実施しており、自己確認も行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内の勉強会に参加し、学習の機会を持っている。実際に制度の利用が必要な入居者には、関係者、行政などに連絡し、活用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い説明を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見箱を設置している。重要事項説明書に苦情窓口を明記しているほか、見やすい場所に連絡先を提示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを開催し、職員の意見が表出できる場としている。申し送りや連絡ノートも活用しているほか、自分の意見を言いやすい職場づくりを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の法人内、各部署代表者による会議で、それぞれの部署との情報交換を行なっている。また、法人本部には常に相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での合同の新人研修や隔月実施の学習会に参加している。スキルに合った外部研修への参加の機会も設けている。業務内では先輩職員が後輩職員へ随時指導ができるような組織づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内や外部研修への参加の際、情報交換を行なっている。近隣の他法人のグループホームとは運営推進会議に参加しあい、良い交流の場となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学で本人と話し合う機会を持っている。また、本人、家族共に納得し、安心して入居できるように体験入居を利用する事もできる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の電話や見学の際、家族の不安などを伺うと共に、話し易い関係づくりに努めている。入居直後は、本人の様子を電話などで伝えるなど、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいた資料や面談内容を他職種で検討し、必要な支援を見極めて対応するようにしている。必要に応じて行政などのサービス利用に結びつけたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、出来ることはやっていたいでいる。立ち仕事が困難な方には座って行える工夫も行っている。職員と一緒に出来る方には付き添うなどし、出来る限り自立した生活の支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子を報告するなどし、外出や外泊を勧めるようにしている。その際の様子もよく伺い、職員、家族間で情報を共有し、本人をともに支える関係づくりを実践している。また一緒に食事をしていただけるように、外食会にお誘いしたり、ホーム内で食事会を開催している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの方の面会を勧めている。希望があれば電話で話していただくなどの援助も行っている。入居前に参加していた行事などへはご家族の協力も得て、継続できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を配慮して食事席などを決めたり、時には席替えを行うなどしている。レクリエーションなどでは入居者同士がコミュニケーションを上手く取れるように職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時には今後も相談に応じる旨を必ず伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で入居者の希望、要望を把握している。具体的な事柄は直接本人の希望を伺うこともある。意思表示が困難な方には生活の様子を注意深く観察し、本人の意向を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族からこれまでの生活全般を伺っている。入居後も会話の中で情報を収集し、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、状態は個人記録に記入している。心身状態や体調は変化を見逃さないように観察している。有する能力を把握し、維持できるようにケアプランに記載し、ケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の希望を取り入れ、日々の生活からアセスメントを行い6ヶ月毎に介護計画を作成している。状態が変化した時は随時プランを変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表、食事摂取量表等の記録、申し送りを中心に職員間で情報を共有し、より良いケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者ひとり一人の変化に応じて同法人内の他の専門職とも連携を取り対応している。必要に応じたサービスが提供できるように家族とも話し合い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や同法人内の行事に参加するほか、買い物、外食、美容院などで地域に出る事で、地域とつながり、楽しみのある生活の支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決め定期的な受診の支援をしている。かかりつけ医には生活上の注意点など相談している。また同法人内の診療所とは医療連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と職員が入居者の状態を把握している。変化があれば家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、情報提供書を病院に提出し、家族の同意を得て医師からの病状説明などには同席するようにしている。退院前には病院関係者と相談し、退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、必要に応じて話し合いを行っている。終末医療専門医、訪問看護の機関と連携を取り、看取りを行った経験がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救急救命委員会に職員を配置し、月一回の会議に参加して内容を持ち帰り申し送っている。グループホーム独自のマニュアルも作成し、勉強会も開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	新羽地区で地域防災協定に加入している。年に二回消防署指導のもと、緊急時の通報、初期消火、避難誘導の訓練を行なっている。この防災訓練には地域の方にも参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビングで申し送りを行っているため、入居者に聞こえないような配慮をしている。更衣、入浴、排泄などにも、ドアを閉めたり、スクリーンを使用するなど充分気を配っている。同法人内の接遇委員会に職員を配置し、接遇チェックも定期的に行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。日々の生活の中から本人の希望などを汲み取るように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重し、本人のペースで生活していただけるように配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着選びでは、その人らしい季節に合った服装の支援を心がけている。衣類購入の際は、その方によって店を選んでいる。髪型も本人の希望に合わせ地域の美容院へお連れしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下拵え、調理、盛り付け、配膳、洗い物など、食べ物の話をしながら出来ることは入居者にやっていただき、食事への関心を高めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を使用し、個別に把握している。水分量は必要に応じてチェック表を使用している。食事、水分量には注意を払い不足気味の方には個別で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方には、排泄パターンの把握に努めて声かけや介助を行っている。日中、夜間とも排泄はトイレを使用していただく事を目標としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らないように、朝食前に牛乳を提供したり、水分量を増やすなど工夫をしている。毎日の体操や散歩などの運動も重要と考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせてるように毎日午後から入浴が可能にしている。入浴したい時間帯や曜日は希望を伺って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の体力を考慮し、必要な方には日中も臥床時間を作っている。その日の状態によって夜間の睡眠に差しさわりのない程度に昼寝を勧めるなど、体調観察と合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人のファイルに綴じ、職員が閲覧出来るようになっている。処方に変更があった場合、職員全員に申し送るとともに、体調に変化が無いか観察し、医師、看護師につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において「できる力」を活用していただき、役割を持って生活をしていただいている。また、外出や趣味の支援を行ない、楽しみのある生活を実践している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は希望を取り入れてコースを決めている。買い物の希望には随時対応している。隔月の外食会では、行き先を選択していただくようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類、日用品の購入時は、ご自分で支払いをしていただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には時間を配慮し電話で話ができるように支援している。手紙を出す際には、切手や葉書などの購入や投函の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた立地で、リビングからでも四季折々の花が見られ、季節感が得られる。室温や臭気に充分配慮し、落ち着いて生活できる環境作りを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには日当たりのよい畳部分があり、個々に新聞を読んだり、日向ぼっこをするスペースとなっている。また、ソファや窓辺でそれぞれ自由に過ごすことも出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など馴染みの物、使い慣れたものを持ち込んでいただいている。自宅での生活のまま、和床で生活される方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手摺を設置し、障害物を置かないようにしている。居室の家具も状況に応じて配置換えを行い、安全に配慮し、自立した生活が送れるように常に考えている。		

